

## 事例② 助けられる側から助ける側へ

### 都立高校の防災体験学習

災害が起きた時に、高校生は自分や家族の安全を確保した上で、消火活動や応急救護活動の手伝いなど、地域での支援活動に積極的に参加することが期待されています。そのためには、支援するための技術を学ぶとともに、地域でどのような支援活動が行われるかを知り、体験する必要があります。

都立高校では、教科「奉仕」の授業等で、消防署や区市町村の防災課、地域のボランティアセンターの方など、地域と連携した防災体験学習を実施している学校があります。ここでは、都立大江戸高校で実施された授業を紹介します。

#### 事前学習

- ・これまで実施してきた防災体験学習（本所防災館、普通救命講習）の振り返り
- ・東日本大震災、阪神・淡路大震災の被害を知る、高校生としてできることを考える

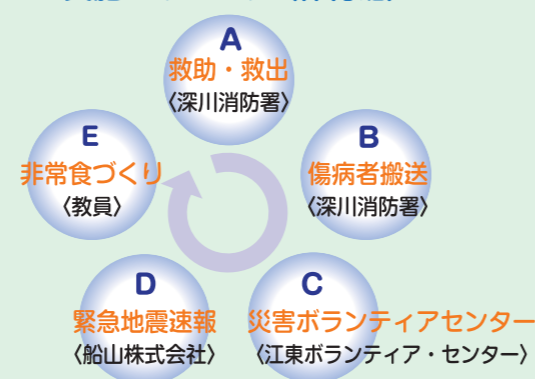
#### 体験学習

会場となる体育館にクラス数の体験コーナーを設置し、25分ずつ交代しながら、すべてのコーナーを体験していきます。学年が5クラスの大江戸高校では、下記の5つのコーナーを全員が体験しました。

##### タイムテーブル

0:00~0:15	挨拶、体験活動の説明、移動
0:15~0:40	体験1回目
0:40~1:05	体験2回目
1:05~1:30	体験3回目
1:30~1:40	休憩
1:40~2:05	体験4回目
2:05~2:30	体験5回目
2:30~2:40	講評、協力していただいた方にお礼教室に移動し、振り返りワークシート記入

##### 実施レイアウト（体育館）



#### 各コーナーの内容

##### A・B

消防署に御協力いただき、25分間で体験できる内容を組み合わせて実施。

消防団員の方にも、一緒に指導していただきました。

- ・車椅子の操作
- ・担架搬送
- ・三角巾の使い方
- ・家具転倒防止器具の説明
- ・徒手による傷病者搬送
- ・クラッシュ症候群を考慮した救助 など



救出方法を学ぶ



家具転倒防止

##### C

- ・災害ボランティアセンターの活動についての説明
- ・災害ボランティアの活動内容について、説明を受ける。
- ・班ごとにボランティア登録の登録受付を行い、「ボ

ランティア活動依頼票」を見ながらどのような活動指示が出たかを班長がメンバーに伝え、役割分担を話し合う。

など、災害ボランティア登録の流れを体験し、注意事項を聞く。

江東ボランティア・センターの職員の方と共に、区の「災害ボランティア」として登録している住民の方にも、登録受付や活動指示についての説明をしていただきました。

##### D

地震のメカニズムと緊急地震速報の仕組みを知る。

P波とS波について、そして緊急地震速報が地震の発生を素早く知らせることができる仕組みについて、映像を使いながら説明。



災害ボランティアセンターから活動指示書もらう



緊急地震速報の仕組みを知る

##### E

- ・次のクラスのためにアルファ化米にお湯を入れて非常食を作る。
- ・前のクラスが作ったアルファ化米や、パンの缶詰などの試食。



非常食を作って味わう

この体験プログラムの全体コーディネーターは、災害救援ボランティア推進委員会が行いました。

災害救援ボランティア推進委員会  
<http://www.saigai.or.jp/b>

#### 高校生の感想から

- ・今回の体験学習を通して、「諦めないことの大切さ」を改めて知ることができました。
- ・震災時には、きちんとした知識と対応力、判断力、協調性が問われることを学ぶことができました。
- ・傷病者の救助や搬送は、ちゃんとした道具がなくても何かで代用したり、周囲の人たちとの協力と正しい知識をもっていれば、いざとなった時に大事な人の命を救えるかもしれないということを学びました。
- ・ボランティアセンター体験では、ボランティア参加者の安全を守るためにはちゃんとルールがあるのだと、初めて知りました。

### 他の高校でも、下記のような防災体験学習をしています。

#### 事前学習

- ・災害ボランティアの体験談★ボランティアセンター職員や災害ボランティア体験者、大学生、NPOの方など
- ・地域の施設（保育園や高齢者施設など）の方に、大震災が発生した時に、水の運搬や食事づくりの補助など、高校生に期待する活動内容を話していただく。



大学生からボランティア体験を聞く

#### 体験活動

##### 防災倉庫の確認★

校内にある防災倉庫の場所を探し、何が入っているか事前に予想して予想した理由とともに発表する。実際の備蓄品を確認し、その使い方を学ぶ。

##### ロープワーク★

津波や川などで流されそうな人を助ける時や、テントを張る時等に役立つロープの結び方を学ぶ。



ロープワークを大学生に教わる

##### 身近なものを使った応急手当★

雑誌やダンボールを添え木にして、制服のネクタイで固定するなど。

##### 災害用トイレの設置

公園や小中学校の倉庫にある災害用トイレを実際の場所を組み立て、専用のマンホールに設置してみる。写真は都立芦花高校での体験活動の様子です。



公園で実際にトイレを組み立てる

##### 地域のAEDや消火器の設置場所を探し、地域防災マップをつくる。

救急救命講習でAEDの使い方を学んだ後に、実際に地域で確認する。



避難所で自分たちができることを考える

★は、都立八王子北高校で、NPO法人「コドモ・ワカモノまちing」を中心に、大学生にも協力していただき、実施したものです。上記にあげた体験の他にも校内に体験コーナーをつくり、本部となる災害ボランティアセンターから指示されたコーナーでグループごとに3種類の体験をしました。また、避難所の運営を想定したワークショップを通して、自分たちに何ができるかについて、話し合いました。

NPO法人「コドモ・ワカモノまちing」 <http://www.k-w-m.jp/index.html>

「コドモ・ワカモノ」が主体的にまちに参画するための環境づくりを行うと共に、感動・感性・感謝する気持ちを育む「感育」により、「コドモ・ワカモノ」と一緒に豊かなまちを育むことを目的として活動しています。震災復興支援活動10年計画「コドモ∞ムゲンプロジェクト」として、「移動式子ども基地」（絵本、玩具、廃材等を積み込んだトラック）で被災地を訪問し、居場所づくりやワークショップなどを行っています。